

降矣、而猶浸灌、不亦勞乎、所貴爲人弟者、奉兄謀逃、脫難、照德解紛、而無處也、卽有處者、非弟恭之義、弘計宗顯、不忍處也、兄友弟恭、不易之典、聞諸古老、安自獨輕、皇太子億計曰、白髮天皇以吾兄之故、舉天下之事、而先屬我、我其羞之、惟大王道、建利通、聞之者歎息、彰顯帝孫、見之者殞淚、憫憫搢紳、忻荷戴天之慶、哀哀黔首、悅逢履地之恩、是以克固四維、永隆萬葉、功隣造物、清猷映世、超哉邈矣、粵無得而稱、雖是日據一本改、曰原作日、兄豈先處乎、非功而據、咎悔必至、吾聞天皇不可以久曠、天命不可以謙拒、大王以社稷爲計、百姓爲心、發言慷慨、至于流涕、天皇於是知終不處、不逆兄意、乃聽而不恐衍、卽御坐、世嘉其能以實讓曰、宜哉、兄弟怡怡、天下歸德、篤於親族、則民興仁、

〔日本書紀二十五〕天豐財重日足姬天皇皇極四年六月庚戌、天豐財重日足姬天皇思欲傳位於中大

兄智而詔曰云云、中大兄退語於中臣鎌子連、議曰、古人大兄殿下之兄也、輕皇子德殿下之舅也、

方今古人大兄在、而殿下陟天皇位、使違人弟恭遜之心、且立舅以答民望、不亦可乎、於是中大兄深嘉厥議、略下

〔續日本紀元明〕和銅七年十一月戊子、大倭國添下郡人倭忌寸果安、略中

並終身勿事、旌孝義也、果安孝養父母、友于兄弟、略下

〔日本後紀桓武〕延曆十八年二月乙未、贈正三位行民部卿兼造宮大夫美作備前國造和氣朝臣清麻呂薨、略中

姉廣虫又掌吐納、略中友于天至、姉弟同財、孔懷之義、見稱當時、

〔奥州後三年記上〕將軍源家の舍弟左兵衛尉義光、思はざるに陣に來れり、將軍にむかひていはく、

ほのかに戰のよしをうけたまはりて、院に暇を申侍りていはく、義家夷にせめられて、あふなく侍るよしうけたまはる、身の暇を給ふて、まかりくだりて、死生を見候はんと申上るを、いとまた

まはらざりしかば、兵衛尉を辭し申、まかりくだりて、なんはべるといふ、義家これをき、て、よろこびの涙ををさへていはく、今日の足下の來りたまへるは、故入道源頼義の生かへりておはした